

## 膵ドックについて

膵がんの罹患者数は日本において増加傾向であり、がん死亡数の3-4位を占める重要な疾患です。膵がんは早期には自覚症状がでにくく、また診断が難しいため、発見時には進行した状態で見つかることも多く、5年生存率（がん診断から5年後に生存している人の割合）が約8.5%（2026年3月現在、国立がん研究センターのデータより）と低いのが特徴です。しかし、早期に見つければ完治が見込める疾患でもあります。

当院の膵ドックでは基本項目で行われる腹部超音波検査に加え、MRI（MRCP）検査と血液検査（腫瘍マーカー）を組み合わせ、膵臓の状態を詳細に評価いたします。膵がんのリスク因子である慢性膵炎、膵のう胞、膵管拡張などの所見を見つける事ができます。粘液産生膵腫瘍の発見にも有用です。

### 特にお勧めなのは以下の方です

- ・膵がんの家族歴がある方
- ・糖尿病、肥満、喫煙習慣、飲酒習慣のある方
- ・膵臓疾患の既往がある方
- ・ドック時の腹部超音波検査で膵臓が見えづらと言われていた方

### 以下の方は受診できません

- ・15-20秒間息を止める事ができない方
- ・MRI検査を受けられない方：  
体内に医療用の機器・金属がある方、閉所恐怖症がある方など

※かかりつけの医療機関がある方は、主治医と相談してお申し込み下さい。

※MRCPとは：MRI装置を使って、胆嚢・胆管・膵臓を詳細に撮影する精密検査です。造影剤や放射線を使用することなく検査を行うことができます。

公立昭和病院  
予防健診センター  
2026年4月